

「狭山についての意見・考え方シート」取りまとめ

1.あなたにとって狭山とは何ですか？

- 生活していく場
- 私にとって狭山市とは、ふるさとであり、生活（くらし）の全てです。
- 平凡ですが、「故郷」です。
- 人生の基盤であり、なくてはならないもの。生まれも、育ちも、これからも、狭山人です。
- 私にとって狭山は「好きなまち」です。東京の近郊にあり、自然とも程よく調和がとれ、人も優しく、「暮らしやすい近郊都市」というイメージがあります。ただ、他の都市に比べて突出したものがなく、全体的に「活気に乏しいまち」という負のイメージもあります。「刺激にかけるまち」ともいえます。
- 緑豊か、高齢者が多い、芸術文化が少ない、子育て世代の活動場が少ない、狭山に住み初めた頃感じた事です。現在は狭山市との繋がりを知り、今後に期待する地元になりました。
- 私の生まれ故郷であり、職場であり、人生の大半を過ごしたかけがえのない地域です。
- 生まれ育った、愛着のあるまち。
- 働く場所（入社以来）であり、プラス生活の場である。
- ふるさとであり、自分を作ってきた場所（育ったまち）
- 「愛着のある場所」です。
- 生まれ育ったまちでとても大切な所です。家族・身内もほとんど狭山で暮らしているので、決して悪くならない場所です。
- 生まれ育った場所、一生離れられない場所、そのため、よくしたいと思う。
- 生まれ、育てていただいた地域。感謝・恩返しするべきもの。
- 生まれたところ。そして、子孫が続いてほしいまちです。
- *夫の転勤で上京し、団地が当たって住むことになった狭山。たまたま偶然で住民となり、そのままここに居ついてしまった。それが私の「狭山」。40年以上住んでいるのに、他所者意識が消えない。故郷はやはり名古屋だという気がする。
*私のように、自然に取り巻かれて暮らす生活が好きなものにとっては、四季折々に楽しめる自然環境があつてよいと思う。智光山公園・稲荷山公園・入間川沿いの桜並木等々、人が自然を愛で楽しむ空間を守り広げたいと思います。
*狭山にはショッピングを楽しむ場所が少ない。旧狭山市駅時代の方がおしゃれなお店が整っていた。狭山市駅は整備されたが、ショッピングの拠点にはなっていないのが惜しまれます。
- 富山は生まれ故郷です。狭山は育ち故郷と感じられるまちです。
- 私自身が生まれ育った「地」ではありませんが、私の子どもたちが育った地です。私自身が育ててもらった地です。全国的にも誇れるのがたくさんあります。他の方々も

「住みやすい」といってくれています。自慢です。

- 「ふるさと」です。狭山に住んで37年になりますが、それ以前は都内を転々としていたので故郷の意識を持てませんでした。狭山を故郷と思えるのは、子育てや地域活動を通して、様々な思い出や人とのつながりが出来たからこそです。
- 自分や家族を育ててくれた大切な「ふるさと」。生まれ育った町とはまた少し違う感覚の「ふるさと」。どこが違うのか考えてみると、自ら選んでこのまちに住み暮らしているということであり、自分で選んだ「ふるさと」だけに愛着もひとしおであるし、よいまちに創る責任もあると感じます。
自分の選んだまちに間違いはなかった！と実感しています。理由は同じ思いの狭山人がたくさんいるからです。
- 市民ではない立場から「狭山」と問われると、やはり「狭山茶」の産地、あるいは本多技研の工場のあるまちというイメージで、東京近郊の住宅地と農村が混在しているところというきわめて一般的な捉え方しかできず、どうしても近隣の川越や所沢と比べると印象が薄い感じは否めません。また、勤務する大学に近接して入間基地や稲荷山公園のあるまちということになりますが、これも狭山の偏った地域の偏った印象に過ぎず、もっと中心部にある地域のそれとは異なる気がします。
- 住み慣れた街、10～30代とずっと縁があるまち

2. 狭山の未来はもっと素敵なまちになるとおもいますか？

いずれも、その理由をお聞かせください。

はい

- 地域に熱くなれる人がたくさんいるので、やり方によっては発展していくと思う。
- 狭山市と市民の繋がりが強く、色々な声に耳を傾けていく事で、もっと住みやすく楽しい狭山市になるはずです。
- 「暮らしやすいまち」の裏側に「活気に乏しいまち」という弱点があります。まちに刺激を与えるような「コト起こし」を積み上げれば、「大好きなまち」に変えられます。まちは「生きています」。安住が、取り残される主要因になります。まちを「生き続けられる」ようにもっていくのが「つくる」の意味です。過去は変えられないが、未来は変えられます。素敵なまちへの「コト起こし」を意識して始め、継続することが「まちづくり」の原点だと思います。
- 狭山市には全国的に誇れる「ひと(山本東次郎氏他)」、「もの(狭山茶、サトイモ他)」、「こと(航空祭、七夕まつり他)」がたくさんあります。望月照彦氏(構想博物館館長)も話されていましたが、持てる資源を最大化することで狭山市の魅力を発信できると考えます。
- 狭山ならではの良さを、引き出していけばもっと素敵なまちになると思います。
- 自分が働いている狭山市だから。
- 狭山市には、未来を素敵に出来る「人」がたくさんいるし、その「人」を知っている

からです。狭山市が好きで、自分の暮らしを豊かなものにしたい人がたくさんいれば、そのまちは素敵なまちになると思います。

○狭山をより良いまちにしたいという「思い」を抱く方が多いのでその思いを抱く方がある一定多数を超えた時に急速に素敵なまちになると思います。そのためにも今回のような「狭山市協働のまちづくり条例」を制定し、スローガンを掲げることは非常に意義があることだと思います。

○狭山を好きな人がいるので

○狭山を想う人がたくさんいるから

○願望です。みんなが、幸せを願う心があれば、素敵な街になると思います。願いはかなうといいますから。

○のびしろがあると思う。・知恵やスキルを持つ人が多くいる。・狭山茶（幅広く活用できる。海外にも通用すると思う）・ホンダの跡地・入間川の景観など

○地域に関心を持ち、もっと良くしたいと思う市民が住んでいる。

○仕事柄、住民の皆さんと暮らす地域について語り合う毎日ですが、ほんとに「狭山」を愛する住民が多いからです。最後までこのまちで暮らしていく覚悟を決めている方々が、その願いをかなえるために、本気になって、世代を超え、立場を超え、損得を超え、お互いを尊重しながらつながろうとしています。ぶつかったり、悩んだりしながらも、時間と手間をかけてつながろうとしています。苦労してつなげた手は、そう簡単に離れないはず。

どんどん大勢の手が繋がっていきます。手を出せない人にはかたわらに寄り添うことから。少し離れた場所から見守ることから。できる人から。

○ホンダの移転による土地の有効活用、入曽駅周辺の再開発、狭山市駅東口の開発など、ハード面の活性化に期待できる。そこに地域に住む人の想いを乗せていけると人も集まり、育てていくことができると思います。

○行政や市民、企業が、その垣根を越えて、未来に向けて一步を踏み出そうとしているから。

○狭山には、農業地区、団地、戸建て住宅地、工業団地など、様々な地域が共存しています。だから所謂旧住民と新住民が居て、田舎ほど濃密過ぎず、都会ほど無関心でもない程良い距離感が出来ていると思います。ロケーションも、都心に1時間ほどで行けるのに、雑木林や畑など緑がいっぱいあります。特別に目立つものはなくても、狭山には地域の特徴や、人の経験・知恵があります。それを上手く融合させて活かせば、新しい文化が生まれ、住み心地よい素敵なまちになると確信しています。

□いいえ

○人が楽しんで歩けるような面として整備された地域空間がないこと。

狭山市駅—狭山市役所—イオン—入間川べり—市民会館—一番街—図書館の辺りが一体感のある街並みになり、若いも若きもそぞろ歩き出来たらと思う。

「まちづくり」はソフト面だけでなく、それを活かすハード面が重要です。それを構

築するのは、行政力によるところが大きいので、市民の意見の集約だけでなく、行政の側から将来の明るいヴィジョン、市民のアイデンティティとなるような方向性を打ち出していくことが不可欠なのではないかと思います。実現していくのは、民間活力の利用や協働のまちづくりを活用するとしても…。

- 今のところ、大企業の移転が噂されたり、それに伴って広瀬の工業団地の企業等も移転してしまうのでは？と耳にします。広い狭山市から会社がどんどんいなくなってしまう、夕張市のように市が破綻してしまうのではないかと不安になります。
- 今のままでは、これといって自慢できるものが無く、または良いものが知られずに、次世代を担う人たちが自信を持って狭山が好きだと言えるまちではないと思うからです。

□その他

- 正直、未来のことは分かりません。頑張れば、素敵なまちになるわけでもないのですが、ただ、一人一人が笑顔で暮らしていければ、おのずと素敵なまちになるのではないのでしょうか。
- これも答えづらい質問です。少子高齢化、人口減少といった社会をとりまく状況からすれば、単純に未来に明るい展望を抱く時代ではないと思います。特に狭山のもつ基礎的条件を構造的に把握して未来を描かないと素敵なまちになるかどうか不明言できません。何よりそこに住み、生活する市民の狭山への愛と人としてつながりが不可欠だと思います。まちを少しでも良く変えていこうという市民の真摯な行動として現れた取り組みが集積されてボトムアップすることによって、きっと狭山がもっと素晴らしくなると思います。

3. 狭山に住むことに誇りがもて、住み続けたい「まち」にするために何が必要だとお考えですか？

○地域の繋がり

困ったときに助け合える、顔のわかる関係づくりが大切だと思う。そのための自治会であり、子ども会であると思うが現状のやり方ではうまくいかないと思う。今の現状は子ども会で言えば「子どもがある程度大きくなってから」の加入になっているが、そのころにはコミュニティができており、あえて負担を要する子ども会には入るメリットがない。妊娠期から（もしくは転居してきてから）、地域のつながりを感じるものでなければ意味がないと思う。もっと自治会の在り方を考えて行く必要があると思います。

- まちを変える意識と行動力が「まちの活気・元気」を創り出します。「Let's Machizukuri」を合言葉にしませんか。「協働のまちづくり」より斬新な響きがあります。防災、福祉、観光、食・農などを包み込む、地域視点に立った、ヨコツナギ的な地域再生への取り組みを意味します。地域課題の解決は、地域のあり方を問いなお

し続けられる、地域学習力に富む市民力と、その解決を支援する脱タテガタ的行政支援に委ねられるものと思われる。Machizukuri を地域再生の共通理念にする必要があります。

- 「狭山には何もない」と会話の中で耳にします。そんなことがないことを狭山の良さを皆で見直しましょう。そしてその良さを皆で発信しましょう。(普段の会話でも SNS でも)。そしてよくするための取り組みを行政などに頼らず、みんなの力で楽しみながら取り組みましょう。TOKYO 2020 が良いきっかけになると思います。
- 上記の現実的な取り組みと別に、全市を挙げてこれぞ「狭山」という他市にないものを創造する必要があると考えます。市民が魅力を感じて総結集できるようなイベントでも、制作物でも、誇れるブランドづくりに知恵を絞るのはどうでしょうか。
- 市民に誇りを持つことを求めるより、まず魅力的な街づくりを提案し発信していく事が先なのは。小さなスコープで開拓ではなく、狭山市には大きなシャベルカーで大きく改革する事も必要ではないでしょうか。
- 「人」→魅力的な人が増えれば
- まちづくりに参加していない市民(特に若い人)に対して、ただ住んでいるというだけではなく、関心を持ってもらうこと。そして、より多くの市民に「狭山市をよくしたい」と思う気持ちを持たせることが住み続けたいまちづくりに繋がると思います。
- すべての市民が狭山市を好きであること。
- 子育てがしやすい環境をつくるのが大切だと思います。子育て世代がいいまちだと感じることで、住みつづけたいと感じる人が多くなると思います。
- 行政と市民がもっと近い存在になること。スポーツを通じたまちづくり。
- 狭山の魅力や素材を共有しながら、さらなる磨きだしを行う。地域の豊かさを維持し、さらなるものを創造していく。そのためには、「住み続けたいまち」を考える場を多く設ける。そこに、多くの主体が参加し、お互いに影響しあうことで、新たなまちの魅力を生み出していくようにする。
- 具体的にはびんと来ないのですが、人が集まり心が豊かになるようなまち、狭山に来ると、人があたたかいね。と言われたいです。とりあえず、狭山の玄関口市役所の方々には市民に優しくしていただきたいですね。
- 誰もが、この狭山に最後まで暮らしていいんだと実感できる安心感が必要です。誰も排除されることのないコミュニティ、SOS にならない声なき声を聴き続けて必要なら支援や見守りにつなげる必要があります。意図的に家族やコミュニティの力を上げていくためには、公民協働で地域力を上げていくこと。そしてないものやあったらいいものを創りだしていく開発力などが必要かと思います。優しいまちづくり。そのためには、子どもたちを地域の真ん中において、みんなで見守りながら、手本となる大人の姿勢を見せながら、子どもたちと共に成長していく、育ちあうことも必要であると感じます。
- 一度、8 年間程狭山を離れ東京都板橋区に住んだことがありましたが、狭山を離れて初めて狭山の良さを知ることが出来ました。①空気がきれい②時間の流れがゆったり

としている③人が優しい④子育ての環境が良い⑤自然が豊かである⑥お茶が美味しいなど、狭山の良さを転居してきた人達に PR することが非常に大事なことだと思います。特に、私の職場は 1,000 人の従業員のうち狭山在住が半分以上でその大半が全国から転居してきた方達です。

- 行動力があって魅力的な人がたくさんいれば、住み続けたいまちになると思う。介護、医療、教育の充実ももちろん大切ですが、最終的には人との繋がりが大切だと思う。
- 多くの「カッコいい大人」が必要だと思います。(裏を返すと、目の前のことで精一杯、他人を思いやる余裕がない人が多い気がします。)
- *協働を進めるうえで、既成の NPO を有効活用する必要があるように思う。NPO は市民の力を小さいながらも結集して生まれたものであり、それらが地域性をもってより効果的に活動するために、行政がどうタイアップし、支援するか、ここを追求するのが一つの有効な手立てになるのではないかと思います。
*地域の概念を 8 行政区単位とするのであれば、まずは公民館・農協・地区センター等が連携して、人の集まりやすい拠点を創る必要があるのでは…。ゆったり座っておしゃべりできる空間がどこにも欠けているように思います。
- 住む人が誇りを持てるようなブランドイメージをつくること。
- ※子どもから高齢者まで、それぞれができることをさせていただくことが、初めの一歩になると思います。
※家庭の中で、子どもが愛されて育つこと。愛されて育った子どもは、友達を、地域を、日本を、世界を愛する子供になると思います。地域を愛する子供は、やがて大人になっても地域を愛する大人になると思います。そのために、育児をするパパママがストレスと抱え込まないように、サポートする仕組みが大切です。遠回りのようですが、とてもシンプルだと思います。
- 対話、つながり、ふれあい⇒具体的には、(子どもから大人までの) たまり場やサロン(まちじゅうサロン、どこでもサロン…的な感じ) つな×つなさやまのような対話の場、起業や地域活動したい若い人が自由に使える会議室や事務所などなど様々な地域や人を活かすために、どうつなげるかがポイントだと考えます。
- 狭山が好きで、好きであり続けるために自ら行動できる人が増え、その機会があること。
- 子育てしやすいまちにするために、ママたちがすごしやすい環境を整えること。